

きんもくせい

令和4年 学校教育だより

March **3** 第352号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



南畑小 第60代 鼓笛隊“響”

写真提供/南畑小学校

「ゆき」

つるせ台小学校 四年

山田 知宏

空からきた

きれいな君

キラキラひかりながら

おちてきた

どんどんおちて

大きなかき氷になった

空からきた

きれいな君

子どもがよろこび

あそんでるよ

これからもつと

おちてくる

生き抜く力を育てる キャリア教育 ハローワーク～

指導者 富士見台中学校 教諭 菅沼 雅子

生徒が夢をもつために・・・

「キャリア教育」とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質・能力を育てることを通じて、自己の成長を促す教育を指します。見、「進路指導」だけがピックアップされがちですが、キャリア教育は小学校から教育課程に位置付けられており、学級の取組及び各教科等に計画され、学校ごとに意図的・計画的に進めているものです。また昨年度から「キャリア・パスポート(各学校での自己の活動を累積したポートフォリオ)」の取組が小・中・高等学校で始まりました。このような理由もあり、キャリア教育の充実が求められています。

コロナ禍により、富士見市の中学生は社会体験学習(はつらつ社会体験、3Days)を2年間実施できていません。社会体験がもたらすキャリア教育の効果は大きく、この体験を経て自分の進路や目指す目標を決めた生徒を何人もみてきました。

ここでは、社会体験学習が経験できなかった生徒たちに向けた授業をキャリア教育の観点から紹介します。

台中ハローワークをやってみよう

「将来の夢や目標をもっていますか」の質問に、「もっています」と答えた生徒が40.0%。今年度(学期)に実施した「埼玉県学力・学習状況調査」質問紙調査の本校二年生の回答結果です。埼玉県の平均が51.3%であり、10%以上も下回っています。日頃の学校生活や授業を一生懸命に取り組んでいる二年生。夢や目標をもつと多くの生徒がもつたならば、努力する理由が明確になり、より一層

いのちの授業

関沢小学校 5年

岩崎 彩矢

12月2日に助産師さんの中理恵さんが関沢小学校に来て「いのちの授業」をしてくださいました。

「赤ちゃんは、誰も教えていないのにせまい産道を体の向きを変えながら産まれてきます。」という話を聞いて、赤ちゃんも頑張って産まれるために努力するのだから、わたしも赤ちゃんのためにできることを考えられるようになりたいと思いました。もし自分の子どもができれば、赤ちゃんに強いしよげきをあたえずに無事に産まれてこられるようにしてあげたいです。

今回の「いのちの授業」から、新たな発見も多くあり、命の大切さを改めて知ることができました。



輝きが増すのではないかと考えました。

「台中14歳のハローワーク」を計画しました。

社会体験学習の意義として

「自己の理解を深め、職業の実像をつかみながら、勤労観や職業観を身に付けること」が挙げられます。実際に仕事を体験し働いている方々とふれあう機会を失った生徒たちに向けて、地域の方を呼んでの講義やインタビューを実施している学校もあるようです。本校はコロナ禍において講師を呼ぶことが難しい社会状況を考慮し、生徒が主体的に学び活動しながら、自分の将来を見つめ直す授業

各職業の適性を

まとめよう

まず、この社会にはどんな職業があるのかをリストアップする活動から始めました。以前、総合的な学習の時間に職業調べを行っていたため、20程度の職業が挙がりました。つぎにそれぞれ職業について、「仕事内容」や「やりがい・大変なこと」そして「適性」を調べ、見やすくまとめました。

「10年後の自分へメッセージを書こう」という取組を行いました。その際、自分に合う仕事(将来の仕事)を個人の主観で考えさせています。自分が今まで思い描いていた将来像を、英文で書くことが主な活動なので、英文文が書きやすい職業を選んでいる可能性がありました。本時のポイントは、客観的な視点から対象者に向いている仕事を紹介することです。ハローワーク側の生徒はグループで作成した職業の適性表をもとに、その人に適する職業を伝え、将来について新たな発見を手助けしていきます。

実は2学期に英語の授業で、

未来を見据え、主体的に ～台中14歳の



「自己のキャリアの広がり

では、ハローワーク活動をはじめていきます。

【自己理解】

まず自分のPRポイントを箇条書きでまとめます。自身のポジティブな能力や性格を考えさせることで内面的な自己理解を深めていきます。

【人間関係形成】

その自己PRポイントを携え、他のグループに所属していた生徒のもとへ行きます。1対1のハローワーク活動では(1)自己PRをきく。(2)「はい」

特別支援教育

「じっくり」「がちり」「チャレンジ」

たんぼぼ学級の挑戦

水谷東小学校 教諭 倉友 暁

水谷東小学校の特別支援学級「たんぼぼ学級」では、

四年生から六年生の児童が学習しています。水谷東小学校のキャッチフレーズは、「じっくり」「がちり」「チャレンジ」です。感染状況も落ち着いてきた十一月にたんぼぼ学級の校外学習を実施することができました。

「じっくり」「がちり」「チャレンジ」自然を満喫しながら山に登る経験をする。という目標を立て、電車で小川町へ行き金勝山登山に挑戦してきました。まず、切符を自分ひとりで購入しました。財布からお金

「いいえ」で答えられる追加の質問をする。(3)対象者の日頃のよい部分を伝える。

【課題解決】

この3点を考慮し、その人に向いている職業を複数紹介します。よりよく短時間で案内できるように、資料には生徒ごとの工夫が施されていました。この活動を数回繰り返すことで、生徒に多くの自分に向いている職業が伝えられます。その職業についての率直な感想をワークシートに記入し、授業のまとめをします。



【キャリアプランニング】

生徒の感想には、「自分の将来の夢と一致していた。」「予想外の仕事を言われて驚いた。」「その職業を言われると思って

いた。」「言われた職業に興味をもった。」などがあり、生徒自身の将来に対する意識が高まっていました。

終わりに

生徒たちは、自分の適性を考えてハローワーク側に伝えることの難しさを感じていたようですが、自分の適性を相手に伝えて、自分に合った職業を教えてもらった時に、新しい自分に出会えたような喜びも感じました。将来、その喜びを持ち続けられるような教育活動をこれからも推進していきます。

指導・講評

富士見台中学校長

堀川 博基

キャリア教育は生き抜く力を育む人生の礎となる学習です。予測が困難な時代であっても、厳しい挑戦を続けなくてはならない時代であっても、教育は子供たちを支えるものでなくてはなりません。富士見台中では職業や働くことを通して、未来の自分のために「いま何をすべきか?」を考えさせています。

何と言っても、未来の自分を支えられるのは、今の自分しかないのですから・・・

人生の勉強を大切に

みずほ台小学校 保護者 小嶋 友邦

私の息子は小四まで学童に通っていました。学童では下校後すぐに宿題というのが基本でしたが、今まで仲のよい友達と遊ぶ事ができなかった反動もあり、小五になってからは下校→友達と遊ぶ→帰宅後ゲーム等で遊ぶ→夕飯→遊ぶ、そして寝る直前に宿題を始めるという事が多くなってきました。

『出来る事は自分でする』という約束があり、本人が努力をする為に促す程度に注意をしてきましたが、実際には半分程度しか宿題をやっていたりなかった事が判明しました。そこで息子と話をし

『友達との付き合いも考え、下校後宿題をやりなさい、とは言わないかわりに夕飯終了後に必ず宿題をやる。』という約束をしました。

約束をあまり破るならば叱る、それまでは注意、という感じで今は過ごしています。勉強というのは宿題や教科書だけではなく、学校生活、家庭生活等の中から学ぶ『人生の勉強』

もあるはずですが、その中には遊びで学ぶ事もあると、私は考えています。

中学生になり、進路を考えねばならなくなってきた時に、きっと『人生の勉強』が役立つ日が来ると思います。それまでは無限の可能性を秘める子供を縛らず、『人生の勉強』も頑張りたいと思います。



「心」を育てるあいさつ

本郷中学校

立ち止まり相手の目を見て「おはようございます。」それが本郷中学校の「ピタッとハロー」です。「ピタッとハロー」の始まりは、今の高校一年生が中学二年生の時でした。学年委員が「ワンランク上」のあいさつを目指し、丁寧なあいさつを実践しました。そして、馴染みのあるネーミングにしようという気持ちから学年生徒へ公募し、「ピタッとハロー」と名付けられました。その後、瞬く間に全校でムーブメントが起こり、今や本郷中学校の伝統の一つとなりました。

現在もその意思を継承している在校生一人一人が心掛け、来校される方々に特にあいさつについて大変評価していただいています。たった一つのあいさつを丁寧にしようという心掛けが、相手に誠実に伝わるのだと実感しています。

本校は昨年度開校五十周年を迎えました。在校生には誇りをもつてあいさつをし、五十年先も「ピタッとハロー」が継承されるよう願っています。



はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

あいさつ ～不易なるもの

諏訪小学校 保護者 梅沢 忠和

三学期が始まり、通学路からも校庭からも子どもたちの元気な声が響いてきます。

諏訪二丁目町会では毎朝、パレット前・図書館横・台中下の三ヶ所に五人のボランティアが児童生徒の安心安全な登校のために横断旗を振って登校を見守っています。

毎朝信号脇に立っていますと、七〇〇名を超える全校児童がパレット前の交差点から正門に入っていきます。

以前は、朝のあいさつを返してくれる子どもたちが少なかったのですが、学校が『凡事徹底』(何でもない当たり前の事を当たり前前にできる子)の指導をしてきてからは、驚くほど挨拶を返してくれる子どもたちが増えてきました。

このパレットの前の道では通勤通学のために通りすぎる多くの方々と出会います。

今ではすっかり顔なじみになって「おはようございます。」の

声かけで「いつてきます。」と
明るい声が返ってきたり、はにかみながら会釈を返してくれて
いますが、中には言葉もなく
顔の表情つ変えず通りすぎる
方もいます。

今、世の中がコロナ禍で社会
全体の様相がすっかり変わって
きました。デジタル化が世の流
行（はやり）ならば、アナログ
的なあいさつのような不易（変
わらないもの）の部分も大事に
していく価値があると思います。
学校は「知育・徳育・体育」
をバランス良く身につける場、
不易が根本だと思っています。社

会の流行（新風）に柔軟に対
応しつつ、不易の部分（基）も
身に付けてもらいたいものです。



「自主学習すごろく」

勝瀬小学校

意欲、集中力、自制心、
判断力、想像力など豊かな
人生を送る上で大切な能力
は数値化されにくく、「非
認知能力」と呼ばれます。
子どもたちが家庭学習に
意欲的に取り組む中でこの
非認知能力を高める方法を
工夫すること、これが本校
の今年の重点目標です。

その試みの一つが「自主学
習すごろく」です。ノート
子どもたちが自主的に、楽し
みながら、非認知能力を向上さ
せています。

せる取り組みを、研究授業
を通して学校全体で進めてい
きます。



教育課題特集

生きる力を

かかりわりを通して子どもたちの心をはぐくむ

水谷小学校 スクールカウンセラー 丹羽 千春

埼玉県は令和元年度より
全ての小学校にスクールカウ
ンセラーを配置しました。私
は現在、富士見市の小学校八
校に勤務し、保護者や子ども
たちの相談にかかわっています。
中学校とは異なり、小学校
は子どもの年齢の幅が広く、
それぞれの年齢や子ども一人一
人に合った関わり方が大切に
なつてきます。例えば、低学年
の子どもは、自分の言葉だけ
で気持ちを表現することはま
だ難しい部分もあります。そ
のため、相談では言葉のやり
とりだけではなく、遊びを通
して子どもの表現を見ていく
こともあります。また、低学年
に限らず、自分の気持ちの表
現が苦手な子にも同様に遊び
を取り入れたりと、選択肢から
選ばせたりと、自分の気持ち
や想いと言葉を繋ぐ工夫をし
ています。

子どもたちの抱える悩みは、
様々です。友達のことや勉強
のこと、家のことなど、多岐に

渡ります。大人から見れば大
したことのない悩みのように
感じて、その子にとっては一
つが大きく重たい悩みのこと
もあります。その子の感じた
気持ちや体験に寄り添い、大
切にされるといふ体験は、自
分や他人の気持ちを大切にす
るという心を育むことにも繋
がっていきます。相談の場が子
どもたちにとって豊かな心を
育む場であるように、今後も
かかわっていきたいと思います。
昨今、コロナ禍で人との繋が
りの難しい日々が続いていま
す。そんな時だからこそ、顔を
見て関わることでできる二つ
の時間を大切にしたいと思っ
ています。





富士見特別支援

三学期に入り、新型コロナウイルス感染症第6波が始まり、臨時休業や学級閉鎖等もありました。その中でも、日々の感染予防対策を講じた上で、教育活動を行なってきました。その中の各学校の特色ある取組を写真とともに伝えさせていただきますました。今年度も直接来校して学校の様子を見ていただく機会が少なかったため、この学校TODAYが各学校の取組をお伝えする貴重な場となりました。

中学部総合的な学習の時間の取組

2学期は「富士見市」というテーマをもとに調べ学習を行い、富士見市の中学校や、周辺の施設・飲食店等について発表しました。



本郷中



在校生モデルによる新制服お披露目

来年度の一年生から新制服が採用されます。50年の伝統を紡いできた現制服に誇りをもって、新制服を着用した新入生と共に新たな歴史を刻んでいくことを願います。



鶴瀬小

大崎電機ハンドボール教室

選手を招いてハンドボールの指導をしてもらいました。子どもたちは、プロ選手のシュートに目を輝かせ、熱心に話を聞いていました。

南畑小



ゴールめざして・・・北風マラソン大会

低学年は920M、中学年は1220M、高学年は1530M、南畑小の周りを走ります。ベストタイムめざしてがんばりました。

令和元年度

男子	小学校 (48 項目)			中学校 (24 項目)		
	○	—	×	○	—	×
項目数	2	16	30	6	10	8
全体の割合(%)	4.2	33.3	62.5	25.0	41.7	33.3

女子	小学校 (48 項目)			中学校 (24 項目)		
	○	—	×	○	—	×
項目数	0	15	33	6	13	5
全体の割合(%)	0.0	31.3	68.8	25.0	54.2	20.8

○：県平均値を上回っているもの
—：県平均値と有意差がないもの
×：県平均値を下回っているもの

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により実施しておりません。
(令和元年度との比較)

- (1) 授業研究会の実施：授業研究部
- (2) 新体力テストの結果分析：調査統計部
- (3) 広報誌「いきいき体力」の発行：広報部
- (4) 高めた体力に焦点をあてた実技研修の実施
：運動(遊び)研究部
- (5) 縄チャレ(長縄8の字跳び)の取組
【本市児童生徒の体力の現状】

『富士見市児童生徒体力向上推進委員会の主な事業』



つるせ台小

気持ちいい!芝生の上で運動中

緑がまぶしい芝生の校庭。子どもたちは、授業や業間休みに思いきり運動を楽しんでいます。



富士見台中

古都を感じられる着付け体験

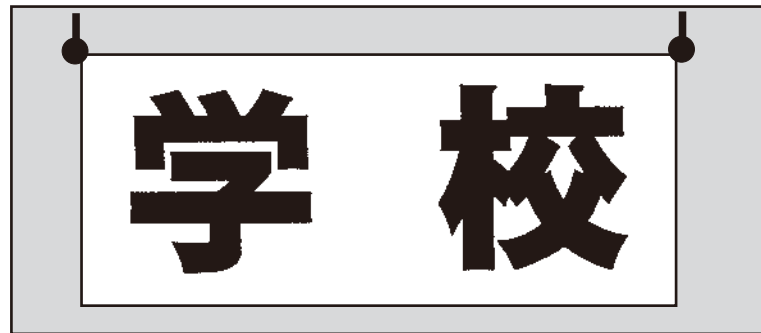
僕達は京都で着付け体験をしました。着物を着たのは初めてでしたが、古都の歴史的な和を感じることができました。



ふじみ野小

縄跳びをがんばっています

持久力と敏捷性を高めるため、縄跳びをたくさん跳んでいます。色々な技ができるようになりました。



水谷中

想いを書き初めに

一年を振り返り、新たな年に向けて自分の想いを「自由書き初め」で書きました。個性豊かな素晴らしい作品が出来上がりました。



水谷小

「集中して、真剣に。」

しんと静まった教室で、今年も書き初めに取り組みました。よりよい作品を完成させようと、集中することができました。

令和元年度の結果と比較すると、中学校男子においては、県平均を上回る項目が増加しております。しかしながら、小学校においては、県平均を下回る項目が多く、体力の向上は喫緊の課題となっております。また、令和元年度より記録が全体的に低くなっており、コロナ禍による運動機会の減少が懸念されます。各学校では、体力向上推進委員会を中心に、体育授業や体育的活動の充実を図り、体力の向上に努めています。ご家庭でも是非、富士見市児童生徒体力向上推進委員会から発行されています『いきいき体力』や、新体力テスト計測後に配付される『体力プロフィール』をご覧いただき、子どもたちの体力向上、健康な体づくりについてご協力いただければと思います。よろしくお願いたします。

令和3年度

男子	小学校 (48 項目)			中学校 (24 項目)		
	○	—	×	○	—	×
項目数	3	13	32	8	8	8
全体の割合(%)	6.3	27.1	66.7	33.3	33.3	33.3

女子	小学校 (48 項目)			中学校 (24 項目)		
	○	—	×	○	—	×
項目数	1	19	28	6	10	8
全体の割合(%)	2.1	39.6	58.3	25.0	41.7	33.3

教育委員会だより

卒業おめでとございませす

春の暖かな日差しの中、市内小・中・特別支援学校の卒業生の皆さんが新たな門出を迎えます。保護者のみなさまには、お子様の成長を振り返り、感慨もひとしおのことでしょう。

卒業生のみなさんは、通い慣れた学校や一緒に過ごした仲間たちとの別れに寂しさを感じながらも、これからの生活に期待を膨らませているのではないのでしょうか。新しい場所で、たくさんの人との出会いを通して、広い視野をもった心豊かな人に成長することを願っています。

在校生のみなさん、4月から1学年ずつ進級します。この1年間を振り返り、新しい目標に向かって、たくましく元気に学校生活を送りましょう。

令和4年度富士見市立小・中・特別支援学校入学式

期日：4月8日(金)

人数は1月20日現在

学校名	開式時間	入学見込人数
鶴瀬小学校	11:10	100人
水谷小学校	10:45	172人
南畑小学校	10:45	58人
関沢小学校	11:00	85人
勝瀬小学校	10:50	87人
水谷東小学校	11:00	23人
諏訪小学校	10:50	126人
みずほ台小学校	11:00	82人
針ヶ谷小学校	10:45	50人
ふじみ野小学校	10:50	76人
つるせ台小学校	10:40	86人
富士見台中学校	10:00	184人
本郷中学校	10:55	123人
東中学校	9:30	96人
西中学校	9:20	130人
勝瀬中学校	10:05	234人
水谷中学校	9:15	94人
富士見特別支援学校	10:10	21人



なのはな学級の活動

諏訪小学校 教諭

小林 秀人



なの花学級には、一組(知的障害)と二組(自閉・情緒障害)があります。合同で授業を行うことも多くあります。朝の運動では、ラジオ体操や鬼ごっこ、長縄跳び

ながら自然や植物への関心が育つていくのを感じます。また、クリスマスや正月、七夕など季節の行事に合わせた活動を行う中で上級生の活動を手本にしたり、下級生

に進めています。漢字カードなど興味をもてるような工夫をすることで、内容を理解し、身に付くよう、一歩ずつ学習を進めています。

多岐な生活や学習で制約の多い毎日ですが、その中でも様々な場面で子どもたちの成長がみられるよう保護者の方々と協力して学校全体で見守っていきたいと思います。

など、みんなで楽しみながら体を動かしています。生活単元学習では、学級園で野菜を栽培しています。土起こしや苗植えもみんなで行い、水やりや草取りの世話をし

を手助けすることで優しさが育つことから、合同で活動することのよさを感じています。国語や算数の授業では、一人一人の実態に応じた内容の学習を行っ

学校行事や縦割り活動、交流学習で、ほかの学級の友達と一緒に活動することも、なの花の子どもたちにとって大切なことの一つです。様々な集団に入って過ごす経験や、友達とのやりとりを通して、人と関わり合う力、社会で必要な力を育てています。

編集日記

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響を受けて、一年の間に夏と冬のオリンピック・パラリンピックが開催されるという珍しい年となりました。連日、日本選手の活躍が報道されましたが、折しも、車いすラグビー銀メダリストの上原大祐さん「大ちゃん」に本校の子どもたちに向けて講演していた機会がありました。講演のテーマは、「制限やできないことをたのしむ」です。講演の後には「大ちゃん」に教えてもらいながら体育館で車いすハンドボールを楽しみました。車いすでは、脚を使えないという制限があります。でも脚を使えない制限は、子どもたちが競技を楽しむ上では何の問題にもならず、白熱した試合が繰り広げられました。時間内では決着がつかず、最後はPK戦で勝敗が決まるという大接戦でした。2時間の中で、「制限を楽しむ」「できないことを楽しむ」そして、「認める」ということを体験しました。さて、突然の臨時休業から、はや二年の月日がたとうとしています。新型コロナウイルス感染症はまだまだ世界中で収まる気配がありません。そんなこともあり、「大ちゃん」の言葉は、強く印象に残りました。たくさん制限があってもできないこともたくさんあります。その中でも、得ることやたくさんあります。今まで普通にやっていた当たり前のことを、見直すチャンスでもあることに気づかされました。限られた中だからこそ、工夫をしながら、今まで以上に楽しくできることもたくさんあるのを知りました。どうしたらよいのか、これだけの、悩むことももちろんありますが、できることを見つけてながら、精一杯取り組んでいきたいと思えます。桜が咲く春には、少しずつ明るい未来が開けることを祈って……。

(辻口)